

令和7年7月

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

|           |          |       |
|-----------|----------|-------|
| 岐阜県       |          |       |
| 学 校 名     | 管理機関名    | 設置者の別 |
| 瑞穂市立生津小学校 | 瑞穂市教育委員会 | 公立    |

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

| 学 校 名     | 特別の教育課程の編成の方針等の<br>公表 URL                                                                                                       |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 瑞穂市立生津小学校 | <a href="https://edu-mizuho.com/catfish/overall-research-concept/">https://edu-mizuho.com/catfish/overall-research-concept/</a> |

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

| 学 校 名     | 自己評価結果の公表 URL                                                                                                     | 学校関係者評価結果の公表 URL                                                                                                  |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 瑞穂市立生津小学校 | <a href="https://edu-mizuho.com/catfish/school-evaluation/">https://edu-mizuho.com/catfish/school-evaluation/</a> | <a href="https://edu-mizuho.com/catfish/school-evaluation/">https://edu-mizuho.com/catfish/school-evaluation/</a> |

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

<特記事項>

授業参観や公表会等で、子ども達の様子を見ていただき、保護者や地域住民が、特別の教育課程による教育の成果を実感できるようにした。

### 3. 実施の効果及び課題

#### (1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例では、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる言語活動を仕組むことで、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指してきた。そして、児童が、興味をもってコミュニケーションを図ることのできる目的・場面・状況等を明確に設定したり、既習表現を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる指導計画を工夫したりすることで、成果を上げることができた。

今後は、さらに、コミュニケーション能力を高めるための指導・支援の方法やパフォーマンステストの設定時期と内容の見直しを行い、それに向けた指導と評価の一体化を進めていきたい。

#### (2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では、平成6年度に文部省指定の研究開発学校として、英語教育の実践を始めた。指定を終えてからも、校内研究の柱を英語として実践し、平成21年度からは、教育課程特例校として、第1～6学年において、「英語科」を実践してきた。児童は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていること、学校が設定する学年ごとの目標について、大部分の児童が概ね満足できる力を付けていること、保護者や地域の方から高い評価を得ていること等の成果が表れている。

英語教育の特色を生かしたコミュニケーション能力を伸ばす学校づくりは、望ましい人間関係を築く力につながり、学校の教育目標の具現に資するものである。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

- ・授業のねらいや TASK に迫るために、視点を明確にした中間コメントを行うことで、自分や他者の伸びや変容を実感できるようにする。
- ・自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を充実させるために、ICT の効果的な活用や、振り返りシートを工夫することで、粘り強く活動に取り組む児童を育成する。
- ・パフォーマンステストの評価基準を整備し設定することで、英語科の指導と評価の一体化を図ることについて追究する。